



GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

4

2011年4月1日 Vol.200

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



東日本大震災

理事長・院長 高木 由利



病院の隣にある清瀬第3中学校の学校保健の会に出席して、私は病院の自室に戻り椅子に座って間もなく、あの地震が発生したのです。

3月11日、午後2時46分、当院は震度5を記録しました。私が織本病院に来て23年間で、初めての大地震でした。私は大きな揺れの中、途中で廊下の壁にぶつかりながら、まず4階の透析センターに走りました。センターの中に入ると、スタッフが透析中の患者さんの傍に立ち、スタッフ間で号令をかけ合っていました。患者さんは全員毛布をかぶり、自分なりの防御をしていたのです。透析センターは日頃から患者さんと共に防災訓練をしていたため、私が驚くほど見事な対応でした。

透析センターの状況を確認してから3階、2階、そして1階へと病棟や外来の患者さんたちの避難状況を確認してから、地下の厨房を見に行きました。どの階もスタッフが落ち着いた対応をしていることが私の安心につながったのです。その晩から病院に寝泊りを数回繰り返し、しみじみと被災地のことを思いました。私はいくら病院とはいえ、ベッドで布団をかけて寝られるのに被災者の方々は、それもかなわない日々なのですから。

織本病院は震度5でも建物等に何の被害もなく、更に計画停電もなく、本当に安定した状態が確保され、感謝の日々を送っています。

私は今回この地震を通して、いくつかのことを反省しました。

- 1) 私は院長・理事長として当日、院内にいた全ての患者さんと全ての職員にねぎらいの言葉をかけられなかった。
- 2) 私は瞬時に災害本部を立ち上げることもなく、現場の安全確認のために院内を走り回ってしまった。
- 3) 私自身、全館挙げての防災訓練の際に真剣さが不足していた。

こういう緊急事態の時には人は自分の本質が見え隠れするものです。でも当院の職員たちは本当によく協力し、一致団結して患者さん、病院、そして職員の仕事を守ってくれました。

* * *

もうすぐ東京都知事選挙です。この災害を“天罰である”などと軽薄な発言をする人間が東京都、いや日本国内に存在することに、私は髪が逆立つほど汚らしく、そして怒りを感じます。その人があの日、私の

病院にいて私と行動を共にしていたら、更にもっと被災地のど真ん中にいたら、もう少しまともな発言をしたのでしょうか。いや、きっとその本質が赤裸々に表

面に表われ、老いた方などをけ散らかして一目散に逃げ出したかもしれません…。

ブランドと仕事 ④

専務理事・事務部長 箕輪 比呂志



今年の冬を乗り切れるかと心配していた織本病院の玄関先を飾っているプランターの花々が春を待ち、華やかさを演出してくれています。

そんな思いを巡らせている先月3月11日の午後、なんの前触れも無く昼食後のひとときに大地震はやってきました。真っ先に避難路を確保すると同時に、4階の透析センターに駆けつけましたが、次第に立ってられない揺れとなりました。まるで建物が唸り声をあげているようにも思えました。透析ベッドを抑えているスタッフの姿が、あたかも映画のワンシーンのようでした。地震が治まり院内を確認したところ、幸いに怪我人が無く、建物の損傷も無かったことを知りました。当院は幸いにして難を逃れはしましたが、津波のテレビ映像を初めて見た時、この度の災害に遭遇された方々にとって恐怖に満ちた瞬間であったと感じ、胸が締め付けられる思いでいっぱいでした。今後、急速に被災者の方々への災害ネットワーク等を活用した支援体制が整い、急ピッチで復興が行われることを願って止みません。当院にも被災地にいらした方々が診察に見え始めています。そのような境遇の方々のお力になれるような診療体制を維持していくことが当院の役割と考えます。

* * *



2月号に、当院には患者様以外に多くの企業の方々、また当院を取り巻く地域にある医療従事者の方々がおみえになり、分け隔ての無い対応に癒されたという「生の声」を書きました。1月号には「たった1人の言動や判断ミスが、組織全体

にとってマイナス材料として重くのしかかる」ことを書きました。これまでも、気づき、配慮、連携が不足した為に患者様に不快な思いをさせてしまったこともありました。大切なことは、「織本病院が持つ独自のビジョン、理念を忠実に事業として再現すること」ですので「患者様に満足して頂ける医療を実践する」「患者様と職員、双方が癒される」ための「言動」に執着して欲しいのです。

3月のある日の夕方、東京都内の病院で造影剤を使った検査を行い、その帰宅途中の電車の中で具合が悪くなった娘さんとそのお母様が2人連れで来院されました。私も受付での2人のお姿を記憶しています。病院では、実に一般的な光景です。高木理事長が診察を行った際に、お母様が「娘がどうしても織本病院に行きたいと言うので…」とおっしゃったそうです。その日、娘さんは入院となられたので、私は先生に次のようなお願いをしました。「なぜ、織本病院を選ばれたのか、理由を必ず聞いておいて下さい。」翌日、その理由を教えてもらいました。まだ娘さんが幼い頃なのでしょう、お兄さんが織本病院に救急車で運ばれたことがあったそうです。この時から、自分も病で苦しんだ時は織本病院で診てもらいたいと思っていたそうです。当時、対応された医師、職員の方々には私は感謝をします。彼女の記憶には医師名も職員名も残ってはいないと思いますが、恐らく付き添いの家族の方にも安心感を与えることができたのだと思います。これまでプラスの深層心理として引き継がれてきたのだと思います、とても嬉しい気持ちになりました。

このことを通じて、皆さんの心に留めて欲しいことは、「職員のだれでもが織本病院のブランド作りに関わっている」ということです。これらの積み重ねが、誰々がという固有名詞ではなく、織本病院ブランドを強固なものにしていくと信じています。



患者さまへのラブレター

呼吸器内科 長谷川 瑞江



日本中が不安と恐れでいっぱいの際に、お世話になった織本病院、そして患者さまとお別れすることが、これほど悲しいとは思ってもみませんでした。いかに私が患者さまや病院のスタッフの皆さまに助けられていたのかを実感致しました。

思えば、5年前にふっと1日だけ上司の桂先生の代診をしたのが始まりでした。こんなに明るく、楽しく働ける病院があるんだなぁと感動して、このままずっと働けたらいいのにな...と感じたのを今も覚えています。その後、院長先生の御計らいにより毎週勤務させて頂けることになりました。

この5年間は、私の私生活には本当に色々なことがありました。ひと時は体調を崩して、このまま働くことができるのか、と悩んだこともありました。この状況を救って下さったのは、紛れもなく、この織本病院の患者さま方だったのです。ご自身の体調が悪くて私の外来にいらしているにもかかわらず、逆に相談にのって下さったり、叱咤激励して下さったりと、患者さまごとに違った方法で私に大きな力を下さいました。私にとって患者さまは、人生の大先輩であり、色々なことを教えて下さる先生であり、そして時には、まるで友人や恋人のような存在でもありました。

もともと私の外来は非常にのんびりしており、時には3時間も患者さまをお待たせしてしまうこともありました。でも診察室に入るなり、「先生、昼ごはん食べる時間あるの?」と心配して下さったり、わざわざ飲み物を持ってきて下さったり、本当に心が救われることがたくさんありました。また、普段医学書しか読まず常識外れな私に、もうすこし頭が良くなるようにと、素敵な木彫りの観音様を彫ってきて下さった患者さまもいらっしゃいました。あと、毎年、自作のカレンダーを作ってプレゼントして下さったり、私の絵を描いて下さったり、かわいいお孫さんを連れてきて下さったり、もう考え出すときりがなくらい、温かい思いやりをたくさん頂きました。診察室はいつも笑

いに溢れて、時間を忘れてしまうくらいに楽しい時間を頂いたと思っています。

この病院の素敵ところは、患者さまのみならずスタッフの方々も本当にいい方ばかりであることです。朝、出勤すると必ず清掃の方が私の体調チェックをして元気を下さいます。昼には常勤の先生方が、食べきれないくらいのおやつやデザートを医局に準備しておいて下さいます。また、健診部門の方はとてもおいしいパンをいつもプレゼントして下さいます。画像診断の大好きな私の迷惑なオーダーを、放射線技師さんはしっかりとこなして下さいます。そして私ののんびり外来に、谷さん（実名で失礼!!）や薬局の方々、そして事務の方々は、何時まででも付き合ってくださいました。考えると、今の元気な私があるのは本当にこの病院と患者さまのおかげだったんだなぁと実感致します。本当に、どうもありがとうございました。感謝しております。

新天地での仕事はうまくいくのか、やや心配ですが、織本病院の患者さまから頂いた沢山の応援の御言葉を胸に、とにかく頑張っていきたいと思います。患者さまも、毎日心配の日々をお過ごしでしょうが、もとの平和な日本になるように、みんなで頑張っていきたいですね。

どうぞ皆様、お元気で!!

長谷川先生は、当院で5年間呼吸器の専門外来を中心に内科外来を担当して下さいました。

可愛くて、明るくて、優しい先生に私はひと目惚れして来て頂いたのです。

今回は呼吸器内科の研鑽のために再び大学に戻られますが、私は先生の健康の事とお別れする淋しさで胸がいっぱいです...

理事長 高木 由利

院外処方せん発行のお知らせ

平成23年5月10日(火)より開始します

近年、健康に対する関心の高まりによって、より質の高い医療サービスが求められており、このような中で患者さんが薬を充分理解して、安全で有効な治療が必要とされてきています。この対応として、処方せんにより『保険薬局』から病院と同じ薬をもらう医薬分業が国（厚生労働省）の方針で推進されています。当院においても、外来患者さんへのお薬の処方は『院外処方せん』となります。



病院から処方せんをもらい、保険薬局で調剤を受けますと次のような利点があります。

- ◎ どの保険薬局でもご利用になれます。
- ◎ 薬歴管理により、薬の重複や相互作用による副作用が防げます。

薬の重複などによる副作用から皆さんを守るために1人1人の薬の服用歴を記録して管理することです。

※ 院内処方より費用が若干多くかかることもありますが、主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い致します。

第120回 腎疾患ゼミナール

『あなたと私と腎不全 ②』 腎臓内科：高木由利
～あなたの食事をもう一度考えてみましょう～

薬局からのワンポイントアドバイス 『腎性貧血を改善するお薬について』

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2011年4月14日(木)
午後1:00～
会場：オリモトホール(当院4F)
参加費：無料

薬剤師：外山 加奈

